28年度のスタッフです

チーム五小を 合言葉にして

	1組	2組	児童数
1　年	齊藤かおり	横尾　倫子	４１
2　年	伊藤　直之	小笠原康子	４５
3　年	佐藤　篤子	＊	３２
4　年	野口　明子	＊	３７
5　年	澤村　　啓	＊	３８
6　年	明日　浩美	岩田　英樹	４７
つくし	石澤　陽一	＊	４

学級数１０　児童数２４４　教職員数２２　(4/30 現在)

校　長	三森　　聡
教　頭	近藤　啓二
教務主任	荒井　康幸
事務主査	井上　　元
養護教諭	黒田由美子
技能長	日下部浩正
技能主任	須貝　智一
講　師	今野　由香
講　師	木村　志乃
講　師	尾形　理恵
図　書	小山智寿子
給　食	工藤　葉奈

1. 学校の教育目標

《運動大好き》 (体)
健康でたくましく
生きぬく子ども

《友達大好き》 (徳)
豊かな心を持ち、
友達とかかわり合える子ども

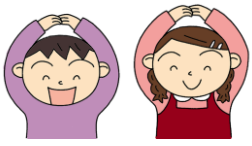
《勉強大好き》 (知)
課題を持ち、
自ら学び続ける子ども

2. 全体構想

キーワード「**居心地のいい　あたたかい学校**」

「 居心地のいい あたたかい 学校 」を 基盤 とする 3つの 土壌づくり
(1)　自分の考えを**安心して言う**ことができるようにします。
(2)　友だちの考えを**温かく聴く**ことができるようします。
(3)　一人一人の**よさを認め合う**ことができるようにします。

子ども達につけたい力
自尊感情



授業づくり「質の高い学び合い」
- 基礎・基本の確実な習得
- 探究的な学び・活用力の育成
- 学び方（できる方法・道筋）の育成

学級づくり「自己肯定感を高める」
- 個々が活躍する場の設定
- 自他の成長の振り返り
- 自己表現できるスキルの獲得

仲間づくり「あたたかい関わり」
- あこがれや支え合いのある異学年交流
- 絆を生む「あたたかな関わり合い」
- 地域のよさを共有したつながり合い

一体感をもって高め合う教師集団（チーム五小）

情報を共有し、ともに支え合う保護者・地域

3. 本校の重点キーワード

「居心地のいい　あたたかい学校」

■ 本校の全ての教育活動の基盤を『居心地のいい　あたたかい学校』とし、チーム五小としてその**環境づくり** に努めます。

いつも一緒に過ごす教室の友達や教師との人間関係に、少しでも気になるようなことがあれば、楽しいはずの教室は、ストレスがたまる居心地の悪い場所になってしまい、学習活動や友だちとの生活に集中することが難しくなってしまいます。
だからこそ、居心地のいいあたたかい環境づくりがとても大事なことと捉えています。

4. 学校経営の重点

（1）一人一人の考えを尊重し合いながら、仲間と一緒に創る「学び合い」学習
・「かかわりあい」と「つながり」を大事にする授業

（2）相手の気持ちを大事にして行動する「五小思草（しくさ）」
・「五小思草」を通してつながるあたたかい心の輪

（3）特別な支援を要する子どもの特性を認め合う自然交流
・個々の特性を受け止め、つくし学級と村山特別支援学校山形校との交流

（4）自分の成長や友達のよさを実感し、自信につなげる場の設定
・自尊感情につながる自分自身の成長を実感するとともに、友達のよさを認め合う場づくり

（5）いじめの芽を見逃さない教職員と保護者間による情報の共有
・子ども達の気になる行動を察知し、各機関と連携した支援体制

（6）県の６教振「地域とつなぐ」における本校の具現化
・地域で活動する人へのあこがれや思いをつなぎ、地域のよさ（人・文化・スポーツ・福祉・歴史）を知る。

（7）個々を生かす学級経営と児童理解に努める教師集団の育成
・山形大学と連携した学び合う授業づくりと学級づくりの研修

5. 重点研究

「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成」
～学び合いを位置づけた、体育科と各教科・領域の授業づくりを通して～

6. 今年度の主な特色

（1）体育科における学び合いの成果を他教科につなげる研究の具体化
（2）特別支援情緒学級の児童増加にともなう支援体制や村特との一層の交流の推進
（3）見通しを持って進める「生活科・総合等カリキュラムマネージメント」
（4）地域とつなぐ「人・文化・スポーツ・福祉・歴史等」の具現化　（県の施策『６教振』）
（5）一中学区連絡協議会（一小・八小・東沢小・一中）の全教員を対象に授業公開（11/22）